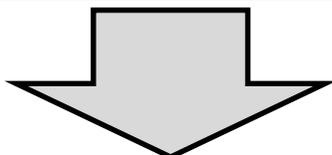


○ 教科【国語科】

1 児童の状況及び実態

- ・知識・技能では、漢字や意味の到達度が平均74%と低い。
- ・思考・判断・表現では、到達度が平均83%となっており、自分の考えや気持ちを上手く整理して話すことが難しい。



2 学習についての課題

【知識及び技能】

- ・2年生の漢字の習得は比較的できているが、3年生1学期の新出漢字（約100文字）の量が多く、定着の差が大きい。
- ・言葉の意味の理解に課題がある。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・自分の思いや考えをもつことはできるが、文章や発言で分かりやすく話すことが難しい。
- ・聞く力については、おおまかな内容は聞き取れているが、具体的な部分が聞き取れていない。
- ・話す力については、「いつ」「誰が」「どこで」「何をして」「どう思ったか」の話型を意識して話すことはできるが、1分間スピーチでは、話題が広がらず、いつも同じ話題になってしまう児童が多い。
- ・文章を書くことは嫌いではないが、段落を分けたり、作文用紙の使い方を意識して書くことは難しい。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・一人一人の思いや考えを共有する機会が少ない。発言する児童が固定化している。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・漢字の意味、文章の中で使われている言葉の意味について国語辞典を使って積極的に調べさせる。
- ・漢字ドリルを活用して、繰り返し書く練習をするとともに、習った漢字は積極的に使うように意識させる。
- ・自分の思いや考えを短い文章で書く機会を増やし、大事な言葉を意識して書くようにする。
- ・1分間スピーチを活用し、あらかじめ話題を提示したうえで、事前に話す内容を準備して話すようにする。

【思考・判断・表現】

- ・自分の思いや考えを書く機会を増やすとともに、友達と話したり見合ったりする機会を設けて、考えの違いや共通点について話し合うようにする。

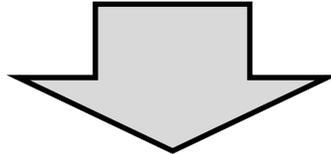
【主体的に学習に取り組む態度】

- ・課題の提示の仕方を工夫し、児童が興味や関心をもって課題に取り組めるようにする。
- ・多様な考えがあり、その良さを感じることができるようするために、児童同士が考えを共有し深めることができる時間を十分にとる。

○教科【算数科】

1 児童の状況及び実態

- ・知識・技能では、大きな数のたし算・ひき算や、わり算などの計算は、到達度平均93%と全体的には身につけているが、かけ算九九が不十分な児童は学年で6%程度いる。
- ・思考・判断・表現では、到達度平均88.5%である。計算式は立てられ、正しく計算できるが、説明をすることが難しい。



2 学習についての課題

【知識及び技能】

- ・かけ算九九が定着していない児童が学年で6%程度おり、わり算の計算では、商を見つけるのに時間がかかる。
- ・大きな数のたし算・ひき算では、繰り上がり、繰り下がりのしかたの理解が不十分な児童が、学年で5%程度いる。
- ・わり算につながるかけ算九九やひき算の計算の仕方の理解に差がある。(1年生レベルの数の構成(例:4と7で11)など基礎的な計算能力に差がある)
- ・時計の学習では、時刻は読めるが、時間の計算が難しい児童がいる。(時計の教材を使用して計算)

【思考力、判断力、表現力等】

- ・自分の考えを分かりやすくまとめる力に課題がある児童が多い。
- ・課題を理解し、計算して答えを求めることはできるが、考えを図式化して分かりやすく説明できる児童は少ない。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・分からないことをそのままにしてしまう児童がいる。
- ・友達の説明を聞いてもノートに写すことをしない、また、学習の振り返りをしない児童がいる。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・算数少数制を活用し、個別指導を通して、一人一人にあった課題に取り組ませる。
- ・文章問題では、「分かっていること」「求めること」を明確にし、図などを活用し問題解決に取り組ませる。

【思考・判断・表現】

- ・計算については、ドリル等を活用し、反復練習をするとともに、小テストで定着度を確認する。
- ・考え方の説明の仕方を「まず…、次に…」のようにパターン化し、順序よく説明できるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・課題の提示の仕方を工夫し、児童が興味関心をもって課題に取り組めるようにする。また、多様な考え方ができるように課題解決の時間を十分にとる。
- ・学習の途中や最後にノートを点検し、児童の考え方に対して評価を入れたり、多様な考え方ができるように指導したりする。また、学習内容の理解度を確認する。

